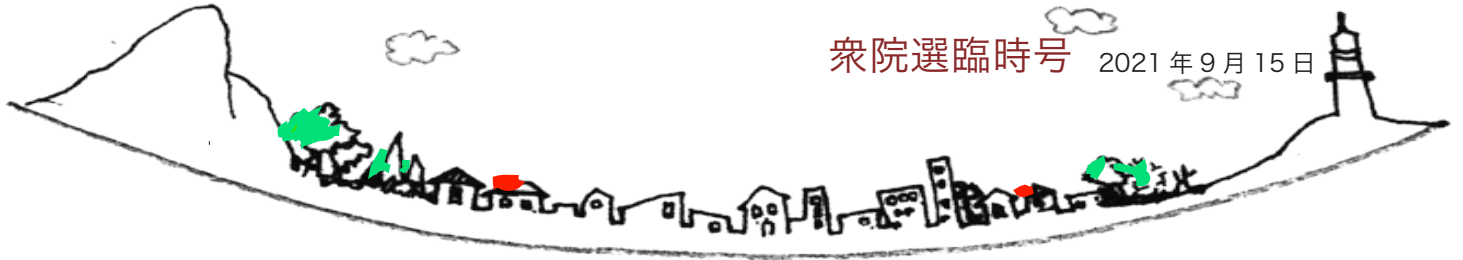


かわらばん

衆院選臨時号 2021年9月15日



この秋、衆議院議員選挙が行われます。今回の呼びかけにこたえて投稿してくださった方々の一票にかける思いとメッセージをお届けします。

「一票」の力で政権交代を！

伊東秀子

二〇二〇年二月にコロナウイルスの感染が発覚して一年八カ月経て、全国での累計感染者数は一五十一万人を超え、死亡者数が一万七〇〇〇人、病床が満杯で治療が受けられない自宅療養者が一三万六〇〇〇人程（八月末現在）となり、自宅療養中に死亡する人も増え続けています。

こうした状況は菅政権のコロナに対する「無策」が齎した結果です。そうであるのに、菅総理は臨時国会も開かず、政権を投げ出しました。その後、自民党内は、闇の権力者安倍・麻生・二階氏を中心に、総理の椅子を巡る「国民不在の権力闘争」に打ち興じています。

コロナの時代を迎えて、「政治家」と「政治家」の質により、国民の生命や健康・生活が大きな危険にさらされてしまう現実が露わになりました。

世界を見回しても、国のリーダーの資質と能力・国民に対する責任感の大小は、コロナ対策の差として歴然と現れています。パンデミックの始まりの頃、ドイツのメルケル首相が国民に呼び掛けたメッセージは、魂の奥深くに届くような熱のこもった言葉の力が聞く人を圧倒し、菅総理の真実味や情熱・重みの感じられない言葉と対照的でした。その差異が欧米諸国と日本のPCR検査数やワクチン接種の差として現れています。韓国や台湾・ニュージーランドと比べても、日本のコロナ対策の遅れは浮き彫りになっています。

この一年七カ月の間、菅政権はコロナの大規模臨時病床（いわゆる野戦病院）の一つも作らず、「Go To Travel」等により感染を拡大させ、莫大な税金を投入してオリンピックを強行し、感染爆発と医療崩壊を加速させました。医療専門家が「現段階は戦争に匹敵する人命を賭した災害である」と言っています。

安倍政権時代の森友・加計における公文書の改ざん、桜を見る会等の政治資金を巡る不正疑惑、河井事件における政党助成金の不正使用などの真相は解明されないまま、政権党の自民党は責任を放棄して総裁選のパワーゲームにうつつを抜かしている状況です。

また、一方、台湾海峡を巡る米中対立が激化する中で、議論の内容・結論が特定秘密として国民の眼から遮断されている国家安全保障会議（NSC）のメンバー麻生氏は「日米が軍事的に一体となり台湾の防衛に当たる」と豪語しており、自衛隊が米軍との協力のため派遣される可能性が出ています。

そうならば、一五年間続けた日中戦争により中国本土や国民を苦しめてきた日本、原発だらけの我が国において、その惨状は計り知れないことになるでしょう。

そして今、一〇月の総選挙が目の前に迫っています。自公による長期政権の失政が露わとなり、国民の信頼を失っている今こそ、チャンスです！

「一票で変える女たちの会」は、二〇一五年四月に発足しました。当時、国会では、自衛隊を海外に派遣させて他国の戦争に加担させる「安保法制」の審議が大詰めを迎えている中で、私達は、「選挙における一票の力で、戦争に加担する道を食い止めよう！」と呼びかけ合い、一一三名の賛同者を得てこの会を発足させました。「政治は否応なしに一人一人の生活に入り込み、我々の幸・不幸や生命の安全に深く関わっている。それなのに、人々が政治に対して力を発揮できる道は閉ざされており、唯一の機会が何年かに一度の選挙だけ」と言う想いからでした。

先の横浜市長選挙は、市民の一票の力により投票率を上げ、現総理のお膝元で、野党共闘による新しい横浜市政を誕生させることができました。

今度こそ、私たちの「一票」の力で、野党共闘による政権交代を、是非、勝ち取りましょう。政権交代こそ、国民の意に添う政治の実現、政治に有権者の命を吹き込める手段です。

ここに集まった多くの人たちの政治を変えたい熱い想いを共有し、それを実現に導くために、このかわら版を拡散して、「一票で政治を変える！」運動を、どんどん拡げていきましょう。

九月五日・北海道



‘21選挙「女の平和」やりましょー！ 政権にレッドカードを突きつけましょー！！

杉浦ひとみ

赤を身に着けて必ず投票に行きましょう。

民主主義を壊し、平和を壊し、格差を広げて市民の生活を壊した今の政権、今の政治は嫌です！

大勢の市民がコロナに苦しんでいる中、それでも政権の維持しか考えない今の動きを、まだ、見過ごしますか？

私たちの一票で、今の政権を変えましょう！

前回の衆議院選挙の投票率は、五三・六八%。

与党（自公）の得票率は、四九・三二%。

獲得議席は、六七・三二%。

私たちがその気になれば変えられる数字です。

国会では誠実な答弁をする大臣を選びたい。自公の内閣では無視され続けました。必要な時に国会

が開かれないことが繰り返されました。コロナで市民が大変な思いをしているのに、政権の維持に必死になっている、そんな政府には、もう私たちの手でレッドカードを突きつけましょう。

私たちが、自分の一票で、民主主義と平和と私たちの暮らしを取り戻しましょう。

どうか、皆さん情報発信してください。投票場で会いましょう！！

九月三日・東京

二〇二二衆議院選挙に向けて考えた二つのこと

宮本一美

1. 二〇一五年新宿駅頭での演説会で当時民主党連舫議員が登壇、話し始めてしばらくするとシールズを中心とする市民から「野党は共闘！ 野党は共闘！」の声が上がり、一票で変える女たちの会の旗の下で、私たちも連呼した。その後、市民連合の呼びかけで野党共闘が各地で実現。二〇一七年には民進党結党、のちに二〇二〇年

分裂。「枝野立て！ 枝野立て！」の声に押されて立憲主義、草の根民主主義を掲げた立憲民主党が結党。もしかしたらという期待感があつたのだが、立憲民主党と市民をつなぐ定期懇談会に尽力されてきた白石孝さんは残念ながら市民参加型の政党にはなっていないと言う。

この夏、白石さんも発起人のひとりである共同テーブル（「いのちの安全保障確立に向けて非正規社会からの脱却宣言」を掲げ、受け皿となりうる野党を市民が育てる）が発足した。

そのキックオフ集会で「政党」からのゲストということで社民党の福島瑞穂さん、新社会党の岡崎宏美さん、緑の党の漢人あきこさんが壇上に並び各自の正直な状況を語り連帯を表明した。初めてみる光景で嬉しかった。

オンラインで続けられた「オリパラを中止させる女達のトークリレー」の中でも、参加者からの要望を田村智子さんと福島瑞穂さんがその場で協力して調査迫及することを約束した。このふたつのこ

とから女性共闘を目指せるのではないかと考えた。

2. 私は地方都市に住んでいる。私の廻りの次世代の彼女、彼等は農的暮らしをはじめ、丁寧な暮らしを実践しつつ暮らしの中から民主主義とは何かを模索している。東海第二原発再稼働に関する県民投票請求の運動の中でもSNSで発信し、クラウドファンディングを立ち上げ三五〇万円の活動資金を集めた（陶芸作家が多いので作品を提供しリターンとした）。

隣の県では「こどもの未来にYESをつくらう」というネットワークがつくられた。地元町会議員と政策会議についての意見交換の会もおこなっている。別の町では議会に東海第二原発再稼働反対の決議を要請、実現させた。楽しそうにたおやかにやっている。時代は少しずつ変わってきているのを感じる。しかし、まだまだ少数派だと思う。

多数派の選挙に興味のない層に向けて、「戦争下でもないのに、国民がいのちの危険にさらされている日本を変えていけるのは選挙

しかない」と伝えたいとの思いから、仲間（六〇代、七〇代だけれど）たちと、イラストやデザインなど、次世代の力を借りながら「子どもたちの未来のために、選挙に行こう」「こんな社会に暮らしたい」「一票でつくるウソとズルのない政治」をかけたチラシを作ってポストインをしている。

九月七日・茨城

つながって生きよう

「人が人として生きられる社会を」

渡辺眞知子

去年十一月の深夜、渋谷区のス停に座っていた六〇代の女性が、石の入ったポリ袋で男に突然頭を殴られて亡くなった。なぜこの女性は死ななくてはならなかったのだろうか。

この女性がバス停で一晩を過ぐすようになったのは去年の春。キャリーバッグを抱えて一人静かに眠る女性を、近所の人は気にかけていたという。

女性は一〇年前から試食販売の

仕事をしていたが四年前に家賃が払えなくなり、ネットカフェへ。昨年コロナ禍により対面試食販売の仕事は激減、路上生活へと追い込まれ、亡くなった時の所持金は八円だった。

女性が亡くなったバス停のベンチは、奥行き二〇センチ幅九〇センチ、真ん中にはひじ掛けがあり横になることはできない。幹線道路沿いの明かりがとるバス停は、路上生活を余儀なくされた女性にとつて、少しは安全な場所に見えたのかもしれない。その女性が自治体や支援団体に相談した記録はなく、生活保護も受けていなかった。

生活が立ちゆかなくなった時に誰もが利用できる生活保護制度の捕捉率は二割と低い。その理由の一つは、申請を抑制しようとする水際作戦である。今年の三月横浜市で申請しようとした二〇代の女性、担当職員に申請の受け付けを拒まれた。女性が録音していた職員とのやり取りが動かぬ証拠になり横浜市側は謝罪、その後女性は都内で生活保護を申請し受給へ

と至っている。

二つめは、生活保護申請時に福祉事務所が親族に「仕送りできませんか」等の問い合わせをする扶養照会である。申請を親族に知られたくない人もいるし、DVや虐待などの事情がある場合は不測の事態を招きかねない。今年厚労省は国民からの抗議を受け、扶養照会の運用を「申請する人の意向を尊重する」としたが、現場では今でも利用を阻む大きな壁になっている。支援者らは「本人が事前に承諾し、明らかに扶養を期待できる場合に限って扶養照会をするように」と訴えている。

三つめは、最低賃金や国民年金（基礎年金）が生活保護基準より低いことがある。この制度設計は国民の間に不公平感を醸成し、また生活保護制度と絡んで存在する貧困ビジネスも、生活保護制度への不信感を招いている。

国民の要請を背景に去年の暮、厚労省のHPには「生活保護の申請は国民の権利です。生活保護を必要とする可能性はどなたにもあるものですので、ためらわずにご

相談ください」という文字が書き込まれた。今年八月には、DagooのYouTubeでの心無い発言を受け、厚労省は公式ツイッターに「生活保護を申請したい方へ」とHPと同様の内容を投稿した。が、現場への浸透は、これからの大きな課題である。

救いの手が届くことなく、一人バス停で命を絶たれてしまった女性、このようなことが二度と起こらないように、一人一人がつながり、支えあつて生きていく社会を祈り求めている。

八月三十一日・東京

多文化共生と夜間中学

薄井 敬

私は松戸自主夜間中学でボランティアをしています。

全国の公立や自主夜間中学で、外国に由来する生徒さんは七〜八割と言われている。在留外国人は二〇一九年現在約二三〇万人おり、今後増加は確実だ。こうした中で自民党政府の日本語等の教育

の施策は極めて不十分で、最近は公立夜間中学の開設も少しずつ進み始めたが、依然として教育活動は民間やボランティアに多く依存している状況である。

松戸自主夜間中学でも外国に由来する生徒さんは六〜七割を占めており、私たちは今多文化共生の課題に取り組んでいる。前川喜平さんが言われているように、日本国憲法において「法の下での平等」が「すべて国民」、人権も「国民の権利」とされ、内外人の平等とはされていない。そうした中で、名古屋入管のスリランカ人「虐待死」事件や、森喜朗氏がオリンピックの聖火点火者を「大坂なおみではなく純粋の日本人でなければだめだ」と言つたとされる事例も起きてきているのだと思う。

我々日本人も、外国由来の人たちとの「多文化共生」を考えなければならぬが、政府には、多方面にわたる法や制度等の改善や、外国由来の人たちに対する施策の抜本的な改善・充実が求められている。

しかしこれまでの自民党政権は

人権や民族に対する古い体質を持ち、外国人に対する偏見や冷たい仕打ちを変えることは期待できない。今秋の衆議院選挙では、横浜市長選のように、改革を求める勢力の共闘をぜひ実現したい。「自民党もだめだが、野党もだらしない！」（この声はメディアによって巧みに作られていることは上西充子さんも「政治と報道不信の根源」扶桑社新書の中で明らかにしている）、「野党連立政権ができて政策や主導権をめぐる対立でぐぐ分解するだろう」等の声も聞く。メルケル首相のドイツは長い間連立政権が続いている。イコールとは言わないが、要は、自民党政治に代わる政権を真に望む世論と行動にかかるではないだろうか。

八月二十九日・千葉



私の一票は真に国民の痛みを知る候補者に投じたい！

藤井昌子

私は長いこと高校と大学の教壇に立って来ました。今も、高校で教壇に立っています。その体験から、子どもたちや、一人親世帯の人が、希望を持てる世の中にしなくてはと切に願っております。

子供の貧困は身近な問題です。

Aさんは高校三年生です。バスケット部員で、勉強もでき、性格もよく、感じのいい高校生です。そんな彼女が最近、得意な英語のテストでかなり点数を落としました。さりげなく聞いてみると、家で勉強ができないという。理由は父親が病気がちで透析を続けていて、母親が近所の給食センターでパートで働き一人で家計を支えているという。非正規の職員で給料は安い。最近、祖母（父親の母）が認知症になり、家族に攻撃的になって来た。そんな祖母に我慢ができないのか、父親と祖母との諍いが日常茶飯事になった。試験の

前夜も、彼女もその騒動に巻き込まれ、勉強どころではなかった。「では、おばあちゃんを施設に預けるとか考えないの？」と私。「施設に入れるのにはお金が要るので……」と彼女。貧困は優秀で健気に生きる高校生の未来まで奪ってしまうのです。彼女は母親が健康で今の仕事を続けられることを必死で願っていると言っていました。

新型コロナウイルスの感染拡大で多くの人が職を失っています。中でも深刻なのは女性たちの失業です。一人親世帯の母親は非正規で働くことが多く、真っ先に首を切られる対象です。子どもたちに三度の食事を食べさせられない。フードバンクで分けて貰った食料を大切そうに抱きかかえて帰る親子。その後ろ姿が忘れられない。彼女たちは生理用品すら買えないという。どれほどに惨めな思いで生きているのだろう。

東京オリンピックに使われてたお金は巨額です。そのお金はすべて税金です。税金は比較的低所得者からも天引きされています。あ

のお金があつたら、子どもに三度の食事が与えられたらうに。生理用品だつて買えたらうにと思えます。さらに、総裁選も、国民不在で派閥の駆け引きで決まろうとしております。

次の選挙では、国民の痛みがわかる候補者に一票を投じるつもりです。「千里の道も一歩から」。私は自分の一票を大切にしたいと思っております。

八月二八日・埼玉

一票を社会を変える力に

荒井俊子

私たちは、北海道から福岡県まで一〇名（うち二名は沖縄出身・一名は広島県の男性）のグループをつくり、九年間セミナーや学習会などを続けております。コロナ前までは、各自の持ち回りで毎年一回、二泊三日の「セミナー合宿」を続けてきましたが、昨年からはその継続が困難となり、オンラインミーティングに変わりました。週に一回、一時間半程度で各自が

提供したい話題について討論を続けております。

メンバーがかかわっている活動や教育の問題、昨今の社会問題に関する情報交換や資料の紹介などを続けています。このところのテーマは、コロナにより寄せられた「いのちの電話」相談内容の傾向、DVや性虐待とセクハラ問題から考える性教育の重要性、辺野古基地問題をはじめ要塞化が進む琉球弧の情報、別姓問題などが話題にあがっています。

また同時に私たちは、「信頼できる地元女性議員を増やそう」という活動にも取り組んでおり、メンバーの一人をバックアップし富士市議員として再選を実現しました。そしてその後も、各々の関係する地方議員選挙時において推薦したい女性候補者を紹介し合い、公約を確認した上でその人の選挙事務所に応援メッセージを届けるなどしてバックアップを続けてきました。自分たちのたった一票が、どうすればできるだけ効率的に社会を変える力になるのかを、いつも皆で考え合って行動を続けてい

ます。

九月からは、『女性と戦後司法』(中村久瑠美著、論創社)をテキストにして、オンライン学習会を始めることになりました。法曹界の中枢における女性の登場をも、今後もっと期待していきたいと考えています。

※当サークルは二〇一二年ピースボート世界一周の船内で、たまたま乗船されていたウーマンリブの研究者(元「ウルフの会」メンバー)故・秋山洋子氏を囲んで、自然学習会が生まれたことをきっかけに結成したグループです。クルーズ船内で学んだ「ペンギンのメスたちの逞しさ」にあやかっこのグループ名をつけました。

八月三〇日・宮城



今こそ 政権交代を！
衆議院選を目前とした夫の戦いと共に

山本美鈴

衆議院選を目前にして、ガンをもつ夫の今進行中の奮闘ぶりを見ながらその戦いの様子を書き記したいと思います。

夫は二年前の九月に胆管癌の末期と診断され、「リンパに達しているため手術はできず抗がん剤の治療を行うが、それが可能でなくなったら緩和ケアをしましょう」といわれました。

呆然自失の日々がしばらく続きました。いきなり「あなたの命はもうしばらくしかありません」と言われたのですから当然です。食卓で対面していても私の顔をまともに見ずに遠くをみながら何かを必死で考えていました。私も子供たちが独立していなくなったこの大きな家で一人暮らしをすることになるのではと覚悟し始めました。そしてその年は暮れました。

しかし翌年になって徐々に彼の考えていたことが明らかになり始

めました。まず朝食を自分で用意したいと言い出して、毎朝判で押したように「リンゴ・ブロッコリ・人参・キャベツ」をしばりハチミツを加えたジュースを飲み始めました。それは今年の四月ごろまで続きました。

またもつと重要なこととして何とか残された生を及ぶ限りのことをしたいと思うようになったのです。これは次男の送ってきた『ガンを告知されたら読む本』(プレジデント社)の中の谷川啓司博士の「ガンを無理に忘れようとするのではなく何かに集中したりする時間を長く作るようにしてガンを意識しない時間をふやすことです」という言葉を読んで彼が自分がこれまでやってきた活動をもつと効果的に速度をはやめることに集中することがもつとも充実した時間になるだろうと思ったからだと思います。

彼がこの地域で行ってきたことを簡潔に記しますと、

1 自然豊かな葉山の地を乱開発しようとする儲け本位の大企業のやり方に、住民運動に参加し

抵抗する。

2 一九九八年創刊の「逗子・葉山・秋谷新聞」を発行し続けて地域での生活の場を知的文化的に正しく認識し豊かに共有する。

3 日本の良心といえる人々―高田健氏・孫崎亨氏・小林節氏・伊藤惇夫氏・望月衣塑子氏・前川喜平氏など―の講演を神奈川県内各地で繰り返し行い今の日本の現状とそれからの脱出の道を明らかに認識してもらう。

4 前衆議員選で当選させた「逗子・葉山・秋谷新聞」の記者であった早稲田ゆき氏を再度当選させるために、憲法国民会議という組織をつくり現憲法のすべての条項をまもりつつ立憲民主党・共産党・社民党など革新野党の結びつきを強め前回選挙でつくれた神奈川四区の市民連合を継続発展させる。

以上四点を中心に毎日彼はこれまでひたむきに活動が続けています。

以上のような努力をする中で奇

跡が起きました。

今年七月の検診で、「胆管ガン治療のために入れたステントの裏はCTによっても見ることはできないが、見える範囲ではガンは見えない。リンパにも達していません。おそらくガンは消えたのでしよう。もう抗がん剤の必要はありません。あとは月一回の検査に来てください」と言われたのです。私はまだ半信半疑なのですが、確かに夫の顔色はよく食欲も旺盛です。医師からも「毎日精力的に何かを目指して取り組んだことが免疫力を高めたのでしよう」と言われました。

今夫は全国的にこの政権交代を目指す闘争を広げられるような本をまとめたと思うっており、また九月には国会の衆議院会議室でシンポジウムを、日比谷野外音楽堂で集会を開きたいと目論んでいます。できましたら一票の会の皆さんに、本ができましたら読んでいただき、集会が実現しましたら足を運んでいただけたらと思います。

八月一五日・神奈川

戦争反対、平和を希求する市民として

鈴木忠夫

戦後長きにわたって続いてきた自民党政治。一時民主党政権に交代したこともありますが、鳩山由紀夫政権はアメリカに倒され、その後続いた菅（直人）・野田政権も短命に終り再び自民党政権に戻り今日に至っています。

八年余にわたる安倍の嘘つき政治、嘘をつききれなくなつて安倍は病氣（仮病）と称して突然退陣、その後を継いだ菅政権は安倍に増し進めています。国民の安全・安心を呪文のように唱えながら、国民はコロナに感染しても、満足な治療を受けられず、自宅療養という名の自宅放置で殺されています。

横浜市長選は一自治体の首長選挙ですが、菅首相のおひぎ元の選挙、菅の選挙区（神奈川2区）も菅の推す自民党大物政治家候補は野党の推す新人候補に敗れ、横浜

市全体の得票でも自民党候補は野党の推す新人候補に一八万票の大差を付けられ敗北しました。これは横浜市民が市長選を借りて菅ファシズム政治にノーを突きつけたも同然の結果です。

集団的自衛権を始め秘密保護法、その他悪法は益々戦前回帰の方向に進んでいき、アメリカ従属の自民党政治は国民をますます苦しめています。防衛省は子供向けの国防白書を作り、子どもにも戦争・防衛について教え込み、戦争のできる普通の国にしようと企んでいます。

私は子どもの頃受けた軍国教育で敗戦まですっかり軍国少年になつていました。天皇のためなら、お国のためなら命も惜しまないと教えられ、その気になつていたのです。小学六年生の時募集が来た少年航空整備兵に応募さえしようと考えたくらいです。子どもへの教育を間違えると恐ろしい結果を生み出します。子供向け防衛白書の意図が透け透けに見えるようで恐ろしいです。

日米安保は日本をアメリカが

守ってくれるというのおまじないと同じです。アフガンからの米軍撤退の姿を見れば良く理解できます。アメリカは中国や北朝鮮の脅威を煽つて自衛隊にミサイル基地建設を進めさせ、日本と中国の關係に緊張感を高めています。

軍事力では決して平和は訪れません。それはアメリカが推し進めてきた軍事力外交がことごとく失敗しているのを見ても分かります。戦後間もなく始まった朝鮮戦争の結果、当時占領下で日本はマッカーサーにより軍事力保持という戦前と同じ体制にさせられました。しかし当時はまだまだ軍国主義復活を恐れて、国家予算の1%という自制が働いていました。が、今は五兆円を超える規模でアメリカの兵器（防衛整備費という誤魔化し用語を使つて）を買いため益々軍事大国、戦争のできる国へと歩みを進めています。

自民・公明連立政治に任せていては日本は再び戦争に巻き込まれる国になつて国民は戦争の惨禍を体験することになるでしょう。戦争は絶対起こさせてはいけません。

ん。その為には菅ファシズム政権を倒さなければなりません。私たちが菅ファシズム政権を倒すには、選挙の時投票する一票しかチャンスはありません。

若者たちの多くは選挙しても政治は変わらないと諦めています。諦めては政治は絶対に変わりません。諦観は民主主義を自ら放棄したのと同じです。たかが一票、されど一票です。一票といえども一票が集まれば大きな力を発揮します。菅ファシズム政権、長く続いてきた自民・公明党連立政権を倒すこともできます。「一票で変える」と団結して運動している「一票で変える女たちの会」の活動を応援します。戦争を二度と繰り返さないためにも。また、三〇〇万余の日本人の命と二〇〇〇万余のアジア近隣諸国の人々の命を代償として得た民主主義を失ってははいけません。

私は「一票で変える女たちの会」の運動を応援します。多くの市民の皆さん、力を合わせて菅政権、自民・公明連立政治から自由と平和を尊重するリベラルな政治へと

政権交代させましょう。

八月三〇日・神奈川

惨憺たる国会の風景

和多田雅子

今年五月一〇日の参議院予算委員会。日本の水際対策が悉く後手に回っている中デルタ株の侵入を抑えきれぬのか、と追及。続いて、連舫「この状況の中で、東京オリパラはやるんですか」

菅首相「開催にあたっては選手や開催国関係者の感染対策をしっかりと講じ、安心して参加できるようにし、国民の生命と健康を守っていきます。これが日本政府の見解です」

さらに「総理大臣からバツハ会長に中止か延期を申し入れませんか」「せめて相談するとも言えませんか」「やらないという判断は下さないという認識ですか」「相談する機会を設けたらどうですか」という連舫氏の質問が続いたが、首相はそれぞれに、全く前述

どおりの答弁を、全く同じ口調で繰り返したのだ。

これが小学校のクラス会議だったら、担任は子どもに「ふざけちゃダメ。ちゃんと答えなさい!」と厳重に注意したことだろう。

ところが国会の委員長はこれだけふざけた答弁も全く意に介さなかった。

国会オタクを自認する私。国会会期中は、気になる委員会をチェックしてインターネットで視聴している。だから国会答弁での論点ずらし、嘘連発の横行には慣れっこになっている。いちいちまともに憤っていては身が持たないので、これを極上のブラックジョークとして楽しむことにしている。

で、国会会期中、私の閉じこもり生活は退屈知らずだった。だが六月一六日に国会は閉幕（たまたま閉会中審査はあったが）。立憲野党は憲法五三条に基づいて臨時国会開催を強力に要求してきたが、いつさい耳を貸さないまま。これだけコロナウイルスが蔓延し、医療が崩壊しているというのに。お

そらく国会のブラックジョークがこれ以上市民の目にさらされては危険だと察知したのだろう。

そして、まともな野党が昨年から要求し続けてきた「検査と隔離」（感染症対策の基本といわれる）は、無視されつぱなし。結果、日本は世界でもまれにみる検査能力の低い国となっている。

私たちの住む国がこの惨憺たる状況から這い出る道はただ一つ、政権交代だ。

このデジタル時代。いくら文書を改ざんしたりシュレッダーにかけたりしても、元データはどこかに残っているはず。政権交代により、この九年余りの政権とその周辺の行状があきらかになるのは、なんとも楽しみなことではないか。

八月三二日・神奈川



小金井市議の男女比は 女性が三四%

野口圭子

私は三九年間出版社に勤め子どもを育ててきましたが、小金井市に住みながらPTAなどの活動は一切せずに子育てを終了している。その理由は労働組合運動が忙しかったのと、残業の多い職種で不規則な働き方をしていたからである。

かつて私の勤めていた出版社は大手ではあるが男女格差は当たり前。社員と同数の非正規社員、それもほとんどが大学卒の女性が社員と同様の仕事を担っていた。そのような環境にある、格差のある会社では労働組合運動に加わらざるを得ない必然性があつた。七〇年代は社会的にも政治活動や組合運動の盛んな情勢にあり、社会的な活動が現在に比べてやりやすかつた。十数年という長い年月を要したが、組合活動の大きな成果を勝ち取つたのである。会社雇用の臨時社員の社員化、男女同一賃金、学歴差（高卒、短大卒、大卒

など）を撤廃し、年齢給になった。働く人々の格差がなくなるということは、如何に働く人々に心の豊かさを与えるかを実感したのである。

その後定年を無事迎えた私は、現役のころより組合活動で男女平等を訴え続けてきた流れから、男女雇用均等法に関する活動に目を向けた。真つ先に目に入つたのは小金井市の男女共同参画室の事業である市民向けの情報誌「かたらい」の編集員公募である。応募し、二年余企画・取材・編集に携わつた。職員と公募で決まつた四人の市民がスタッフで、監修は当時地元の学芸大の副学長の女性教授であつた。市民向けに年二回四千部発行。

この仕事为契机となり、「公民館」の企画実行委員に応募し六年間務めた。小金井市の公民館は一九五三年に創立され、現在は五館が地域ごとに設置されている。地域づくりのセンターとしての活動、地域の人の学習の場としての役割を担っている。企画委員としては「こどもの権利」、「高齢者学

級」、「男女共同参画」などの講座を担当した。その他文化的な講座も多数開催されている。公民館は社会教育の場として多摩地区においては重要な役割を担っている。特に地域ネット、緑の党などの女性市議の多くは公民館の企画実行委員の経験者である。公民館を拠点として市民活動をしてきた女性たちが市議となり、男女比は女性市議が三八%を占める。ちなみに今年の都議選で当選したのは女性で元小金井市議である。

私にとつての市民活動はある意味、仕事の延長上にあるように思えてきたのである。それは「ジェンダー」、「こども」、「高齢者」など社会を取り巻く課題は編集者であつたころテーマにしてきたことでもあるからである。現在も「こどもの権利」、「ジェンダーギャップ」、「沖縄の基地問題」などの活動に微力ながら関わっている。次世代へ繋げていきたいの思があるから。

今号は秋の衆議院選挙への意見を募集しているので、私が政治に望む事を簡単に記します。まずは

九年以上も一党独裁で安倍・菅政治が日本にもたらした非民主主義的な事例——付度政治、国会をないがしろにしてきた事、政治資金の暗部（支出が不明）、電通、パソナなどへの丸投げ、学術会議問題など——ほんとにきりなく民主主義・人権などを踏みにじつてきました。野党は協力して国の明日を国民に示してほしい。選挙民が「選ぶ政党がないので仕方なく自民党へ」という浮動票をとりこむ施策を具体的に提起してもらいたい。切なる願いです。

九月五日・東京

政治家に何を望むか

伊藤充子

ここ一年くらいになるだろうが、テレビのニュースを殆ど見なくなつた。たまに見えていても、自公維新の政治家の顔が出てくるとすぐに切つてしまう。このような反応は私だけでなく、周囲でもよく聞く。そこでせっかく総選挙が行われるのだから、この際、ど

いう政治家を私たちはほしいか、政治家に何を望むかについてちょうど参加しているボランティアの会議があったので話し合ってもらった。真つ先に上がったのは「コロナ対策をしつかりやってほしい、その対策や現状、経過、結果をはつきりと発信してほしい」だった。そして「弱い立場の人や声を上げられない人の代弁者になれる人」「当選して終わりではなく勉強し続ける人」「人権を守るために立ち上げられる人」「権力志向なしにリーダーシップを発揮できる人」「血の通った自分の言葉で語れる人」その他。

皆で話し合う中で、政治家に求められるのは「コミュニケーション能力」だということになった。こんなことは政治家としてという以前に社会人として当たり前のことだが、それを求めざるを得ない政治家が多すぎるのが現実。安倍前総理も菅総理も国民とコミュニケーションしようという意思も能力も全く見られなかった。コミュニケーションとは、外国人を含むすべての日本に住む人の声や専門

家の話をじっくり聞く。分からないければ質問し、議論し、理解し、その上で対策やビジョンを決めていく。決めたらそれをしつかりと自分の言葉で国民に伝える。(記者会見という場が一体何のためにあるのだろう)。特に災害レベルと言われる現在の緊急事態においてはすぐれたコミュニケーション能力を持った政治家を私たちは必要としているし、そういう政治家を選びたいものだ。

九月七日・千葉

政権交代で一番に望むこと

樹村みのり

先日、武田砂鉄さんのラジオを聴いていたら、砂鉄さんが次のように言っていました。

菅総理は『人生相談』という自著の中で、アメリカの国務長官を務めたコリン・パウエル氏の本を読み、パウエル氏が「記者には質問する権利があるが、わたしには答えない権利がある。そう思ったから楽になった」という記述を知り

「それを読んだら、わたしも気が楽になった」と書いているそうです(菅・パウエル両氏の著作に当たる余裕はありませんが、ここは砂鉄さんを信用します)。

さて、ふつうに考えてパウエル元国務長官が言ったのは、プライヴェートな答えを要求する質問、たとえば「ブッシュ大統領は○鹿だと思えますか？」とか、国家機密に関する質問だとわかるはずです(あつ、前の質問も国家機密だったかも)。決して緊急事態宣言下で国民の大多数が反対するオリンピックを開催する理由を答えないことでも、学術会議に六名を任命しない論拠を答えないこと、などではありません。

菅総理が記者の質問にマトモに答えないのは、パウエル氏の著作を我田引水して「答えなくても構わない」と確信しているからです。これは「頭が悪いので説明できない」より、もっと悪質です。記者(国民)の質問を封殺する総理大臣が日本を治めている、ということだからです。

わたしは、竹中平蔵氏と組んだ

小泉純一郎氏が日本の働き方を壊して若い人たちの貧困化を促進させた元凶の総理大臣だと思っています(竹中氏はその後、人材派遣会社パソナの代表になり「李下でスモモ食べまくり」となった御仁です)。安倍元総理は政治家の倫理観・道徳観というものをトコトン貶めました。菅総理に至っては、ついに自民党は国民の大多数を無視しても構わない、という総理を輩出してしまったのです。

次の自民党総裁候補の面々を見ると、自民党にはここまで薄っぺらな人材しか残っていないのかと唖然とします。女子の中でも不人気中の不人気な女の子が先生のヒイキで立候補したり、大切なことでも平気で嘘をつく粗暴な男の子が立候補したり……小学生の学級委員選挙でも、ここまでヒドイ生徒は選ばれないでしょう。

三〇代の頃、政治家個人にはなく政党に票を入れる北欧の選挙を知りました。言わば全部が比例代表制の選挙方法です。どんな個人でも結局最後は党の意向に従うのですから、これは真つ当な選挙

制度だと思いました。死に票で悩むことも無くなり、個人候補者の負担も軽減され、より多様性になった立候補者が可能になると思えたからです。また、確かアメリカのある州では、世襲候補者は親と同じ選挙区から立候補できない、ということも知りました。今の政権では、自分たちが不利になる選挙制度の改正は到底望めないでしょう。まずは政権交代ですが、現行の選挙制度の改正が、わたしが政権交代で一番に望むことです。

九月八日・埼玉

今、思うこと

石田郁子

安倍政権下で長年官房長官だった頃の菅総理を思い出す。一本調子で何処の誰を見て話しているのか、視線の先がわからないような、表情、話し方としか思えなかった。安倍の後を引き継いで総理の座に就いたとき、庶民出、苦勞をした人だと知り、実は少しは国民目線

を持つ人かと、その点にわずかな期待を持った。ところがどうだ。菅総理の目線の先に、国民、庶民を見出すことはできなかった。

事なかれ主義も最たるもの、コロナ禍に身を隠して、「コロナ終息のために何をするのか」の問いには、「私の責任で」というばかり。菅総理のいう「責任」は、まるで中身が空っぽではないか。化けの皮がはがれて、自民党内に、若者の中に、反菅の声が大きくなってきた。こんな総理はもういららない。さらに声を大にして「ノー」と叫ぼう。

今、立派な人とはだれと問われれば思い当たるのは、今は亡き中村哲医師。そんな人物は与党議員の中にいるだろうか。

パラリンピック大会が開催されているが、平和とは何かを考えるとき、弱さを強さとする生き方があるような気がする。身体もさることながら、心の障害という垣根を取り払ったところにこそ平和はある。善き政治もある。コロナ禍の中での開催ということで、若干問題も残るが、いいものを見せて

もらい、汚れた心の隅々まで洗い清めてもらった人も多いに違いない。

政治を、生き方を、根底から考え直す時なのだろう。『地球平和憲章 日本発モデル案——地球時代の視点から九条理念の発展を——』を取り寄せて読み、久しぶりに自分の中にあるモヤモヤが消えた。自分の立ち位置を、今一度はつきりと教えられたような気がして。

九月一日・埼玉

この一票で政治の流れを切り替えよう！

北越優子

私達の生命を守ろうともしない今の自公政治を、どうしても許せません。誰もが持つこの一票で、この政治の流れを切り替えよう！

菅さんがテレビに出てくるとテレビを『切る』と誰もが言う。ちよつと待つて。テレビを切るのではなく、我々の一票で、政治のスイッチを切り替えよう、政治の

流れを切り替えようよと、周りの友人たちと話しています。

私は五〇年近く労働組合運動を続けてきました。続けてやってきたことに後悔はありません。でも、政治の流れを大きく変えることができなかつた。それがとても残念です。職場の改善・改革運動にのみ重心を置いてきたからだと思います。

労働運動を卒業して地域の中で生活して、政治がどんなに大きく我々の生活を仕切っているか！を日々実感しています。

コロナ下での政府の無策は、国民の命を紙屑のように見ている現れです。コロナに罹っても入院すらできない政治の貧困！

非正規の仕事しか就けない女たちの苦しみ、子供たちに食事すら満足に与えられない貧しさに目を向けない冷たい政治！

それでいて、高い兵器購入の防衛予算だけが上がり続ける今の政治！

不満はもう爆発寸前です。だからこそ、今が政治のスイッチを切り替えられるチャンスだと思う。

気持ち新たに、私たちのこの一票で、まずはこの自公による強権政治を交代させ、政治の流れの切り替えを果たしたいです。

八月三十一日・北海道

一票は本当の光へと向かう第一歩

かねこたかし

菅劇場は、書き直しの利かない「楽観シナリオ」に基づいて、独善的芝居を日々演じ続けている。座長は裏方が用意した台本を読むだけだから、糊で引付けいてしまった台本を読み飛ばしても、文章が成立しなくなったことに気づかない。「唯一の被爆国の総理」という大役を演じてさえも。

そもそも、独善的施策の正当性しか語らない人物に国を任せていたら、国は一日ごとに命を縮めてゆくしかない。コロナ、地球環境、格差拡大、そして戦争化への臭い。今こそ『後手後手場当たり右傾臭内閣』に幕を――。傍観は許されない。一票の権利行使こそが、(希望的ではない)本当の光へと向か

う第一歩だ。

八月二十九日・埼玉

政治家としての本当の素質とは

草薙耕造

小生は男性ですがジェンダールズ社会の入り口にある社会に期待して日頃感じていることをお伝えしたいと思います。

その第一は、政治家として本当の素質を持つ人々の不足です。我々の多くが政治家として素質のある人を我々の所有する権利を活用して適正に選択できれば、日本の政治も変化する可能性があります。それでは、本当の素質とは、いったい何でしょうか。

第一は、嘘を付かないことです。正確な現状把握をすれば、嘘を付かないで済む可能性を発見することができると考えるのは甘い推定でしょうか。多くの国民は、多くの政治家が自己の利益や自己の主義主張の為嘘を付く現状を承知しています。しかし、自己の保全の為に敢えて嘘を黙認してきた事を

反省している人々も少なからずいると思います。

第二は、結果責任を果たす意思とその適正な責任の取り方を知っていることです。多くの政治家が、他の人々に責任を転嫁して、自己保全を図る醜い姿に国民は辟易しております。

第三は、正確な情報分析力を持ち、政治的課題を解決する方策を提案できると共にその課題を解決する強い意志を持っていることです。

それでは、これらの素質を駆使して実現すべき政治的課題は何でしょうか？

人類は、長い歴史から戦争が人々にどれだけの被害を与えてきたかをどれだけ学んできたでしょうか？多くの政治家が戦争の目的を唱え、国民を戦争に駆り立てていきましたが、その結果は多くの国民に耐えがたき苦しみを与えてきました。戦争やその為の軍事力を訴える政治家が本当に戦争により、平和がもたらされると本気で考えているとは思われません。更に、卓近な実例では、自己の利

益を全体の為と言い換えて、反対する意見を抹殺し、反対する人々を現実に虐殺することを是とする政治家が多いことは、日本ばかりでなく、多くの独裁政治を是とする国々に見られるばかりでなく、現実に独裁を実行する国々が残念ながら増加している様に思われます。

私は、これらの国々が現実に戦争を選択するかどうかを判断できません。しかし、せめて相互の誤解に基づく偶発的な戦争の発生を防止することは可能だと考えます。立候補する人々には、戦争をどの様に考えるかを先ず問いたいと思います。この点についての考え方によって、私自身の投票の可否を考えたいと思いますし、賛同する立候補者の出現を期待したいと思います。

八月三〇日・長野

民主主義の政権を

狐崎晶雄

安倍から続いている現政権は、その非民主主義性を自ら証明している。

それは議論を徹頭徹尾避ける手法そのものが、反民主主義だからである。民主主義の手法は議論である。どんな政策決定にも必ず反対意見があるから、その反対者と議論して、どの点で合意ができて、どの点で見解の違いがあるかを明確にすること、それが民主主義である。

政策決定は、複数の政策のプラス面とマイナス面を比較し、よりプラスの多い方を採用する手順である。この過程が「議論」であって、政治家の議論に国民が参加できるように、議論を尽くし、その過程を国民に公開すること、それが民主政治の基本である。政治家がちゃんと議論していれば、違う結論に至っても国民は納得できる。政権党が数の暴力で押し切った場合でも、国民の目にその事実がちゃん

と明らかになってくる。

ところが、安倍・菅という二人の首相は、意図的に野党や記者との議論を避ける手法をとってきた。安倍・菅両首相は、出された質問には答えず、ほかのことを持ち出して国民の眼をはぐらかす。不都合な質問には答えず、抽象的な「国民の安心・安全」を念仏のように何回も繰り返して、議論を打ち切る手法をやり通してきた。しかし、この姿がかえって、国のリーダーとして、国民のこと・国の将来を全く考えていない本質を露わにしている。この卑劣な手法は、「自衛隊のいる場所が非戦闘地域だ」などと言つてのけた小泉元首相あたりから広まってきたように思う。

私は、二〇一二、一三年ころから、政権が戦争に向かっているのではないかという恐怖を感じるようになった。それは、二〇一五年の安保法制の強行採決、国家秘密法の制定、国民の自由な会話を監視する「共謀罪」の強行採決、閣議決定による集団的自衛権行使の容認、と続いた強権政治で明らか

になり、森友・加計・桜を見る会問題での重要な情報の隠蔽と廃棄に繋がっている。

もう国民を愚弄するのもいい加減にしてもらいたい。我々の怒りも限界に近い。はやく正常化しないと、一九三〇年から一九四五年までの「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起きる」（憲法前文より）事態になってしまうだろう。そうした恐怖を私は覚えてしまうのである。

だからこそ、「選挙における一票」で、我々が政治を変えていくしかない。

八〇年経つても、憲法の前文は民主主義の基本であり、日本の土台である。憲法前文をもう一回読もう。

九月一日・東京



「政権交代」こそ日本を救う！

中尾則幸

戦後七六年経って、今ほど人の「いのち」を軽んじた政権は過去にあつただろうか。新型コロナウイルスで苦しむ感染者を「自宅療養」という都合のいい言葉で放置してきた菅政権。また、近畿財務局の職員に公文書の改ざんを強要し自殺に追いやった事件も、名古屋入管の収容施設で病魔に襲われたスリランカの女性を放置し、死に至らしめた事件も「いのち」の軽視でなくて何であろうか。

安倍・菅と続いた「いのちの軽視政権」をストップさせなければ、日本の明日は危うい。それには総理が誰に変わろうとも、「政権交代」しか道はない。

最大の選択肢を「国民のいのち」とするならば、自公政権には退場してもらわなければならない。

「選挙で変える」そして「選挙で変わる」ことを信じて。

九月六日・北海道

国政刷新実現への方策について

高原美智子
高原 伸夫

安倍・菅政権の九年の間に、日本の政治・経済・社会の状況は、一気に劣悪・下降の一途を辿った。直近では新型コロナパンデミックと、オリパラ強行により、国民の命を二の次にした、この政権の独裁ぶりと無策・無能ぶりが露出して、ついに菅首相は退陣に追い込まれた。

この政権のやってきた悪政と腐敗政治は、自民党総裁が誰に替わっても、そのまま続くと考えた方がよい。自公の議員たちの体質が替わるわけではないからだ。したがって、国政の根幹から刷新を図ることが必要で、野党と市民の柔軟で強固な共闘態勢を組むことが必須の条件となっている。

国政刷新を確実に進めるための方策を、以下、具体的に考察しておく。

①野党と市民の共闘が柱。展望を大きく。

国政刷新の展望を大きく、魅力あるものにして掲げ、国民の各層にきめ細かく浸透させる。私たち一票の会からの提案として、「本当の民主主義国家を目指そう」「女性議員を飛躍的に増やして、北欧型の福祉国家へと脱皮しよう」という、斬新なイメージを膨らませる。

②女性候補者の比率を高める。

二〇一八年五月施行の法律に基づいて、野党が女性候補者の比率を大幅に高めていることを、大きく国民に知らせる。自民・公明は男性の現職優先だから、女性比率を高めることが出来ない。これは両党の決定的弱点となる。そして福祉国家実現には、多数の女性議員の存在が欠かせない。

③国会を開く意思のある政党だけに支持を、と訴える。

政党ベースでは自民・公明・維新が、国会開催拒否を続けてきた。彼らには国会議員として働く意思も資格も無い。再び国会に送ってはならないと訴える。

④一人でも多くの政治参加を。

投票率を上げさせる。

真の民主主義社会実現のために、特に若者には、未来を自分たちの手で切り開いてゆく覚悟を固めてもらう。無党派層と女性が進くと政治が変わる、と言われている。「選挙に行こう」運動を大規模に展開しよう。

⑤自民党総裁選と「新総裁に期待」という電波ジャックに対抗して、積極的に、野党共闘の報道に力を入れてもらう。

自民党総裁選動向の報道が九月中毎日続く。党内政争に過ぎないのに、国民に派閥や有力者の名前を擦り込み、総選挙前の事前運動の効果を狙う。が、自民党が今回の総裁候補だけは別にして、如何にオトコばかりの政党であるかも、よく分かる。これを突くと自民党は慌てるに違いない。

総裁選報道に対抗して、野党共闘の報道に力を入れてもらう。女性候補者の選定作業、知名度の高い候補者、新しい目玉政策策定などの話題を積極的に提供する。共闘応援団にメデイ

アで活躍してもらうのも一法。自民党新総裁への期待が喧伝されようが、「自公両党は、表紙を変えても中身は一つも変わらない」ことを、特に力を入れて訴えてゆく必要がある。

⑥維新の動向には特に注意が必要。

野党を名乗っても実は自公補佐勢力・改憲勢力であり、自民離れ票をある程度吸収する可能性が高い。また過去には、野党第三勢力の装いで、新しさだけを売りにして無党派層を取り込む企みが続出し、一定の功を奏してきた。これは野党共闘票への障害となり得る。インチキ野党が出たらの確に正体を暴く必要がある。

九月六日・福岡

山を動かそう

林 克行

「コロナ対策に専念する」などと欺瞞的な理由で、菅が実質的に政権放棄、実は民意の猛反発に怯え

た政権党が詰め腹を切らせたのだ。菅が逆噴射の果てに開けたパンドラの箱から、出るわ出るわ魑魅魍魎の数々。

男、女、見てくれは違っていて、どれもこれも、安倍・菅の悪政——森友・加計、桜を見る会、学術会議委員任命拒否、接待疑惑の「親子丼」、コロナ失政、そして中国・韓国に対する敵視政策等々——を、事実上、容認してきた連中ばかりで、安倍・菅と同じ穴の貉だ。

顔が代わっても、いまだに安倍が隠然たる勢力を誇示している政権の存続を許してはならない。

パンドラの箱に最後に残ったのは「希望」、それは一票の力で悪政に終止符を打つこと。「菅のままで総選挙だったら、勝てるかもしれないのに」などと、他人頼みは清算して、今こそ、一票の力を結集して、山を動かそうではありませんか。

九月七日・神奈川

自民・公明・維新にはお灸を

小泉秀夫

感染症の基本は検査して感染者を隔離・治療することです。特に新型コロナウイルスは感染しても無症状の人が多くいるので、検査をしなければ症状が無い感染者は普通に活動を続け感染を拡げます。日本政府はコロナ感染が始まった二〇二〇年以降、一貫してこの基本を無視してきました。人口当たりの検査数は、米英伊仏露日（日経公開データ）の比較の表でも圧倒的に少ないですし、それを裏づけるように感染率は一番高くなっています。五輪に際しても、七割の国民が中止か延期を望んでいるにも拘らず強行しました。その際、国民にはPCR検査の有効性を否定して、一向に検査数を増やさない一方で、五輪関係者には、頻繁にPCR検査をするという矛盾した中での五輪でした。案の定その後、感染の急拡大で、多くの人が入院できずに重症化の危険に晒されている事態となりました。自宅

療養と言っていますが、実際には自宅放置です。朝元気でも時間を追って急激に悪化してしまうのもコロナの特徴で、軽症や中等症の内に入院できれば重症化せずに助かったはずの命も救えないことも起きています。感染が命の危険と隣り合わせになるのではという恐れを感じる日々になっています。結局、五輪が結局は国民の命と健康をないがしろにして、菅氏の政治的願望で強行されたことがはっきりしてきました。

コロナが一つの例ですが、自民・公明政権が国民目線の政治をしていないことがわかります。菅氏が退陣しても、同じ自民党の首相が続くなら事態の改善は望み薄です。単に看板を架け替えたに過ぎません。維新の会にしても、自民・公明政権と同様、保健所を始めいろいろな公共福祉の予算をカットしてきました。今回の大阪のコロナ感染の様子がそれを表しています、維新の会も受け皿にはなり得ません。

自助・共助で切り捨てるのでなく、税金を公助のために使う政治

に変え、安心して暮らせる社会に変えるため、自民・公明・維新にはお灸をすえましょう。

九月八日・神奈川

何が何でも、投票に行くこと

道下匡子

大切なことは、国民ひとりひとりが、この衆議院議員選挙で、安倍以来続いてきた戦後最大の悪政に、はっきりと留めを刺すことです。公務員の鑑、赤木俊夫氏の悔しきは、私たち、まっとうな日本国民すべての悔しさです。沖縄、福島、国に「見棄てられた」人々、そして非正規労働者として、不当な条件の下で働いている多くの女性、男性、その他苦しんでいるたくさんの方、子供たち。私たちは「おとなしい羊」であることに、金輪際別れを告げ、「怒れる」誇り高き日本人に变身すべきです。そしてすべての有権者が、この貴重な一票を、ほんとうの日本を、日本人を、文化を、そして自然を取り戻すために使うのです。シン

ポジウムも、署名集めも、議論も不要。戦いは、衆議院議員選挙。野党連合の各党は、明晰、高潔、あたたかく人間的で、かつ水もしたたるほどの魅力的な候補者を、全国くまなく立てて欲しい！そして有権者は、「誰になっても同じ」とか「他に誰もいないじゃん」という、馬鹿げた発言は、今日限りでお別れ。愚痴るな、文句言うな、何が何でも、絶対に投票に行くこと。そして野党連合（立憲民主党、共産党、社民党、れいわ新選組）に一票を投じることです。

九月一日・東京



〔編集後記〕

「衆院選臨時号」として八月末に呼び掛けてから二週間足らずで、多くの方から今の政治を変えたいという強い気持ちのこもった原稿が寄せられました。そのひとつひとつに編集作業をしながら励まされる思いでした。寄稿してくださいました皆さまに心から感謝いたします。

寄稿された方々の肩書・職業については記載していただいた方もいらつやいましたが、通常の「かわらばん」が姓名のみ記載する原則ですので、本号もその原則に則しました。年代については入れることに反対される方もあり、見送りました。問合せにお答えくださった筆者の皆さん、ありがとうございました。

政局がめまぐるしく転変した結果、選挙日は一〇月末あるいは一月初頭と予想され、市民が活動できる余裕ができました。一票を政治を変える力とするために、この臨時号を活用していただければ幸いです。

一票で変える女たちの会

『一票で変える女たちの会』かわら版
★印刷版をご希望の方は左記FAX、メール、ホームページの問合せ欄からご連絡ください。

★投稿大歓迎！

□ナ禍の中の暮らし、本や映画の紹介、地域での活動報告、選挙や地域の政治の動き、情報、ご意見、なんでもお寄せください。（一本について四〇〇字〜一六〇〇字）

宛先：1pyodekaeru@gmail.com

郵便：〒162-0823

東京都新宿区神楽河岸1-1

東京ボランティア・市民活動センター

メールボックスNo. 45

FAX：03-5684-1412

mail: 1pyodekaeru@gmail.com

HP: <https://1pyo-de-kaeru.com>

★カンパのお願い

私たちの活動に賛同する皆さん、ぜひカンパを！

郵便振替口座：

記号番号 00110-6-420003

□座名称 一票で変える女たちの会

イッピョウデカエルオンナタチノカイ

銀行等から振り込む場合：

店名(店番) 〇一九(ゼロイチキユウ)

店 (019)

預金種目 当座

□座番号 0420003

